お茶の時間　心に響く言葉　6

第140号　2020、1、31　(1)

心に響く言葉

悩むな と言っても
無理だろうが
夜は考え事をするな
できるだけ
晴れた日に
雄大な風景の中で
悩んでみろ
答えは 違ってくるぞ

若い頃父親に言われ、それ以来悩むと富士山を見に行く。と。
シンガーソングライターのさだまさしさんのエッセーで知った。私は空か海。
さださん、良いお父様ですねえ。

第141号　2020、2、3　(1)

心に響く言葉

人は 誰でも
子どもの時がある。
そして
すべての人は、
いずれ 高齢者と
呼ばれる日が
くるのだ。

作家 五木寛之さんのエッセイから抜粋。
「この先の十年は長いようでも、振り返ってその十年は アッと言う間よ。ホントに短いこと、スタッフたちに話したら、二十一歳の新人スタッフが「エッこわい。どうしよう」と目をまん丸にしたアハッ。まだまだこれから これから。知ることたくさんあるから。

第142号　2020、8、21　(1)

心に響く言葉

人生は
晴れ時々
くもり
一時 雨

気象予報士 斉藤義雄さんの言葉。24年も前の朝日新聞日曜版に掲載された時のもの。資料整理中に見つけた。今は身近かな地点の直近天気がすぐにわかる。「オッケーグーグル、今日の新潟市西区の天気は？」「ハイ、今日の…」と返事が。今お天気キャスターは大人気。予報用語知識が増えた。嬉しいな。

第143号　2020、11、8　(1)

心に響く言葉

新米と、ふ
よろこびの
かすかさり
飯田 龍太

お米が大好き。朝食はご飯と味噌汁。又漬けは欠かせない。元気の素になっている。
おむすびの具は、鮭か梅干だ。
今年もイクラの醤油漬けを夫が張り切って作った。炊きたてご飯にたっぷりのせ、パクッと頬張る。普段は魚沼産コシヒカリや新之助を食すが、隣県の山形産つや姫も気に入っている。ご飯っておいしい。

第144号　2021、3、6　(1)

心に響く言葉

新しい風

いつもなら賑わかな新年。コロナ禍で誰も来ない正月になった。
一月二日、書き初め動画が送信。小学五年生の孫と父親が書いている。つられて私も筆を持つ。
もうすぐ新学期。心踊る春のはずなのに コロナの終息が全く みえない。
新しい風よ、吹き飛ばしてくれ。

第145号　2021、5、10　(1)

心に響く言葉

誹謗中傷

「人の悪口を言ったり、人を誹謗したりする行為は、犯罪に匹敵する邪な行為。をいうことが堂々とまかり通っている」
ある対談での倉本聰さん(脚本家)の言葉が心に残った。
コロナウイルス禍で陽性と判明した人を自殺に追い込んだ言葉や行為。感染者に対する差別的な投稿は目に余るものだ。
昨年の連休中は、診療所内のコロナ感染予防対策に追われた。あれから一年。コロナの状況は、収束する気配がみられない。みんな頑張っているのに…
終息宣言など今の有様では夢の又夢。無力感が漂うばかり。

第146号　2021、9、1　(1)

心に響く言葉

喫茶去

きっさこ
喫茶去とは、禅語で「お茶でも飲んでこい」と、もともと相手を叱咤する語であるが、のちには「お茶でも召し上がれ」の意に解され、日常即仏法境地を示す語と解された。
(広辞苑第六版より)

第147号　2021、11、11　(1)

心に響く言葉

書くことは
考えること

気持が疲れたなあ、とポツリとしていた時、文化人類学者の奥野克巳さんの随想を日報紙面で読み、少しだけ元気をもらった。
「手書きしてみなさい。そうすれば関与しているという感性が呼び覚まされ深い洞察が得られるから」とイギリスの人類学者、ティム・インゴルドが学生たちに呼びかけている、と。
ほぼ四半世紀「お茶の時間」は手書きだ。思い深い書き手とはほぼ会えないが、心に響く言葉に出会えた。